LPガスのカーボンニュートラル

暑い夏を迎えると、地球温暖化が進行して異常気象現象が増えているのを実感する。地球全体でのカーボンニュートラル（排出されるCO$_2$を人間の活動で吸収・除去し、排出量をプラスマイナスでゼロにする）に早急に取り組まなければならない。LPガス業界でも高効率ガス機器による省エネ・省CO$_2$の推進やグリーンLPガスで非化石エネルギー導入の拡大を図るなど、快適な暮らしを守るための準備に積極的に取り組んでいる。

「カーボンニュートラル2050年に実現」に向けて

地球温暖化を阻止するために日本では、二〇二〇年に「二〇五〇年にカーボンニュートラルを目指す」ことを宣言している。また、二〇二一年には二〇三〇年度の新たな温室効果ガス削減目標を二〇一三年度から四六％削減することを目指す方針を示している。

LPガスは、石油や石炭といった他の化石燃料に比べて燃焼時のCO$_2$排出量が少ないといわれているが、LPガス業界も国内でのグリーンLPガス合成・製造に加えて、海外からグリーンLPガスを輸入することで二〇五〇年には、すべての国内需要のカーボンニュートラル化を目指す。

第一段階である二〇三五年に向けたグリーンLPガスの社会実装を確実に進めて行くための具体策として

・海外からのグリーンLPガス輸入（含、rDME）に向けた、海外プレーヤーや生産者との連携強化

・バイオガス等を使った地産地消型の国内生産事業の早期の立ち上げと取り組みの加速化

・省エネ化や燃料転換の促進・カーボンクレジットの利用拡大

をあげている。

二〇五〇年時点でのLPガス全量のCN化（約八百万トン）を視野に、二〇三五年時点での想定需要比（省エネ対応前）一六％（約二百万トン）のCN対応（非化石化）を目指す。

二〇三五年に向けた個別の数値目標と方策については、

Ⅰ. グリーンLPガスの輸入として、百万トン（五〇％）を海外での日本企業による製造やプロジェクトからの調達、他に、海外メーカーからのグリーンLPやrDME調達

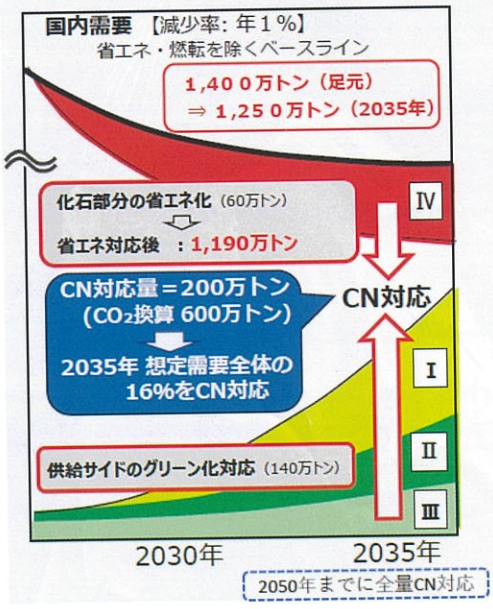
Ⅱ. 国内生産二十万トン（一〇％）は、グリーンLPガス推進協議会による北九州地域での社会実装化や北海道鹿追町等での生産

Ⅲ. カーボンクレジットを利用したLPガスを二十万トン（一〇％）まで拡大する。

Ⅰ～Ⅲの供給サイドのグリーン化対応の小計は、百四十万トン（七〇％）。

Ⅳ. 省エネ化・燃転の推進（化石部分の省エネ化）六十万トン（三〇％）は、高効率給湯器の普及促進（エコジョーズ、ハイブリッド給湯器、家庭用燃料電池の一段の普及促進）と石炭／重油等からの燃料転換等で行う。

これら合計でCN対応量は二百万トンでCO$_2$換算六百万トンとなる。

グリーンLPガスは、再生可能エネルギー（水力、風力、地熱などの発電）から製造した水素と、火力発電所や工業炉から排出されたCO$_2$、家畜や木くずからできるバイオガスなどを、触媒を使って合成するガス。排出されるCO$_2$、バイオガスなどの温暖化ガスを回収するためカーボンニュートラルに大きく貢献するという。

LPガスのCN対応に向けた今後のロードマップ